

# 病害虫発生予察地区報 第1号

—— 地区注意報 ——

病害虫名 スモモヒメシンクイ

## 1 情報の内容

スモモヒメシンクイが、今後多発する恐れがある。

## 2 対象地域

東北信地域の日本すもも園、プルーン園、りんご園

## 3 根拠

- (1) 須坂市井上(日本すもも)、佐久市(プルーン)及び中野市(日本すもも)のフェロモントラップにおける第1世代成虫の誘殺数が、平年と比べて多くみられた(図1～3)。
- (2) 日本すもも、プルーンほ場で、果実被害が散見されている園がみられる(図4)。
- (3) 今後、日本すもも、プルーン、りんごなどにおいて、第2世代、第3世代の幼虫による果実への食入被害が多発することが懸念される。

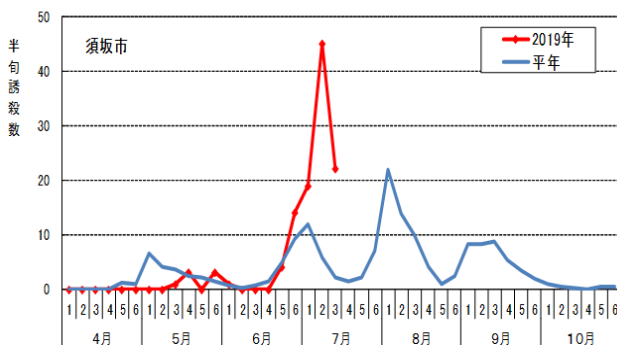


図1 須坂市日本すももほ場の誘殺状況  
(平年：2009～2018年)

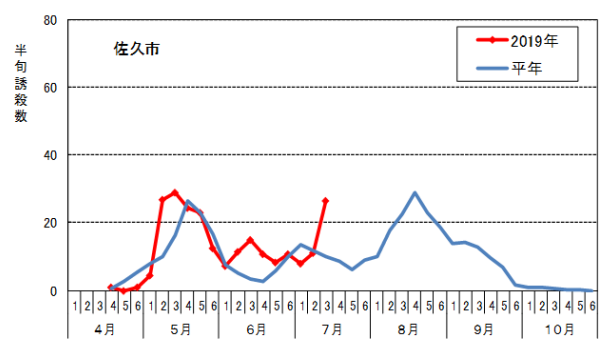


図2 佐久市プルーンほ場の誘殺状況  
(平年：2009～2018年)  
調査：佐久農業改良普及センター

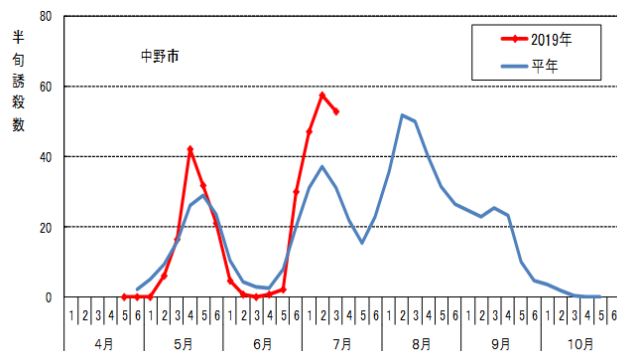


図3 中野市日本すももほ場の誘殺状況  
(平年：2009～2018年)  
調査：北信農業改良普及センター



図4 スモモヒメシンクイの被害果

#### 4 防除対策

- (1) 果実に食入した幼虫には効果が期待できないため、殺卵及び孵化幼虫の食入防止を目的として、登録のある殺虫剤を適期に散布する（表1）。
- (2) 防除時期は、第1世代が5月上旬～6月上旬、第2世代が6月下旬～7月中旬である。第3世代以降（8月上旬）は連続して発生するため、9月中旬までは防除間隔があき過ぎないように連続して防除する（発生が多い場合は、10日間隔で散布）。
- (3) りんごでは、8月上旬以降に飛来が多くなるので、8月下旬～9月中旬の防除が重要となる。
- (4) 日本すもも、プルーンの被害果の多くは落果するが、落下した果実内でも蛹になるため、被害果は速やかに全て回収し、一週間以上水没させたり土中に深く埋めるなどして処理する。  
りんごの被害果も、みつけ次第回収し、日本すもも、プルーンと同様に適正に処理する。
- (5) 園の付近に発生源となる日本すもも、プルーン、ハナモモ、クサボケなどが植栽されている場合は、これらに対して適正に防除する。
- (6) 今後も病害虫防除所の予察情報（<https://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/>）や農業改良普及センター等のフェロモントラップ調査結果を参考にして、本害虫の発消長の把握に努める。

#### 5 その他

- (1) 中南信地域においても、スモモヒメシンクイの発消長の把握に努め、被害の発生が懸念される場合は防除の徹底を図る。

表1 シンクイムシ類に登録のある殺虫剤（普及に移された薬剤） 7月18日 JPPネット確認

作物名	系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
りんご	有機リン剤	サイアノックス水和剤	1000倍	収穫45日前まで	2回以内
		スプラサイド水和剤	1500倍	収穫30日前まで	2回以内
	カーバメート剤	オリオン水和剤40	1000倍	収穫前日まで	2回以内
	合成ピレスロイド剤	イカズチWDG	1500倍	収穫前日まで	2回以内
		アディオン水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
	ネオニコチノイド剤	ダントツ水溶剤	4000倍	収穫前日まで	3回以内
		バリアード顆粒水和剤	4000倍	収穫前日まで	3回以内
		モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	収穫前日まで	3回以内
	ジアミド剤	エクシレルSE	5000倍	収穫前日まで	3回以内
		サムコルフロアブル10	5000倍	収穫前日まで	3回以内
すもも (日本すもも) (プルーン)	有機リン剤	サイアノックス水和剤	1000倍	収穫21日前まで	2回以内
		ダイアジノン水和剤34	1000倍	収穫21日前まで	4回以内
		ダーズバンDF	3000倍	収穫14日前まで	2回以内
	合成ピレスロイド剤	イカズチWDG	1500倍	収穫前日まで	2回以内
	ネオニコチノイド剤	スカウトフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内
		モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	収穫前日まで	3回以内
	ジアミド剤	サムコルフロアブル10	2500倍	収穫3日前まで	3回以内

※合成ピレスロイド剤は使用地域が指定されているので注意する。

※薬剤によっては蚕毒、魚毒に注意する。

長野県病害虫防除所  
丸山秀樹（所長） 堀 道広（担当）  
TEL：026-248-6471（直通）  
FAX：026-248-6473  
E-mail bojo@pref.nagano.lg.jp